

公共図書館における情報リテラシー支援を創る、拓く、実行する

石川敬史（十文字学園女子大学）

■プログラム、レジュメ目次

- (1) 情報リテラシー支援（6月14日）
- (2) 情報リテラシー支援の実際（7月12日）

【講義1】なぜ情報リテラシー支援が必要か？

～公共図書館における情報リテラシー支援を考えるために～

1. 本講座における問題提起

- (1) 【創る】Why（なぜ必要か？）
- (2) 【拓く】What（何を？）
- (3) 【実行する】How（どのように？）

2. 一般的な図書館の「情報リテラシー支援」の事例から冷静に見つめ直す……

3. 一般的な定義・「方法と手段」の考え方

(1) 『図書館情報学用語辞典』丸善（第4版）

① 「情報リテラシー」

「さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力。具体的には、以下の能力を含む。<1>情報へのアクセス……<2>情報の評価……<3>情報の活用……（略）」（下線部分は著者）

② 「図書館利用教育」

「図書館の利用者および潜在利用者の集団を対象に計画、実施される、組織的な教育活動。…近年では、情報環境の変化などを背景に教育内容が拡大、多様化し、図書館を含むさまざまな情報（源）の効果的利用に必要な知識が技能（情報リテラシー）の習得を目指す種々の活動を包括する用語と解される。」（下線部分は著者）

(2) 『図書館利用教育ガイドライン』（日本図書館協会図書館利用教育委員会）

① 図書館利用教育の定義

「すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育である。」（下線部分は著者）

② 各館種版の策定

公共図書館版「図書館利用支援ガイドライン」：1999年8月（理事会承認）

③目標・方法

領域1（印象づけ）

領域2（サービス案内）

領域3（情報活用法指導）

→理念と目標，実現するための具体的な方法を体系的に示したガイドライン。

（3）方法・手段の考え方

4. 【ミニワーク1】

5. 学校図書館・大学図書館の事例から考える

- （1）【大学】高等教育のための情報リテラシー能力基準（ACRL）
- （2）【大学】高等教育のための情報リテラシー基準
- （3）【大学】高等教育のための情報リテラシーの枠組み
- （4）【大学】現代高等教育政策の文脈を解く
- （5）【大学】学生の生活システム
- （6）【学校】学校図書館における探究学習
- （7）【ミニワーク2】大学で試行錯誤した実践例から考える：現場でつかえそうな「方法」

【講義2】公共図書館における情報リテラシー支援の可能性

1. 公共図書館における情報リテラシー支援

- （1）現在の状況はどうか……
- （2）文部科学省関連の資料から「情報リテラシー」を読み解く
 - ①「図書館の情報化の必要性とその推進方策について：地域情報化推進拠点として（報告）」
生涯学習審議会社会教育分化審議会 1998.10
 - ②『2005年の図書館像』（2000）
 - ③『図書館による町村ルネサンスLプラン 21：21世紀の町村図書館振興をめざす政策提言』
（2001）日本図書館協会
 - ④『これからの図書館像：地域を支える情報拠点をめざして（報告）』（2006）
 - ⑤「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（2012.12）（2001）

2. 公共図書館における情報リテラシー支援の必要性

- (1) 「第2期教育振興基本計画」 中央教育審議会 (2013年6月14日)
- (2) モスクワ宣言 (IFLA) 2012年6月28日
- (3) 学習権宣言 (1985年)
- (4) 「メディア情報リテラシー」 (MIL)
- (5) 公共図書館における情報リテラシー支援の目的を再考する

3. 公共図書館の実践例

- (1) 「教えて！あなたの図書館活用法・成功体験」 (岐阜県図書館)
- (2) ジュニア司書養成講座 (八街市図書館)
- (3) 知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」 (豊中市立図書館)
- (4) 図書館主催の「講座」の考察
- (5) リトルプレス『そこら』 (滋賀県東近江市)
- (6) 農業支援サービスの事始め (岩手県紫波町)

4. 市民の図書館活用のストーリーと図書館の課題